（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	令和の筑北村観光づくり
事業主体 （連絡先）	筑北村 （電話）0263-66-2111
事業区分	（６）ア　特色ある観光地づくり／（６）エ　商業の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,062,287 円（うち支援金：2,147,000 円）

事 業 内 容

・デジタルスタンプラリー（7/29～10/29）
・歩いて巡るコースづくり
　JR 駅からハイキング（4/22-23、8/26-27、10/21）
　聖南中学コラボ企画善光寺街道ウォーキング（10/29）
・キャラクターの制作
・ガチャガチャの製作

【 イベントの様子 】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①各事業や派生したコンテンツに話題性があったことから、メディアで取り上げられる機会が増え、また、web 広告では潜在層に広く発信でき、知名度・認知度向上に繋がった。（スタンプラリー 各種メディア 71 社が記事・ラジオ 1 件・テレビ 3 件・新聞 2 件/キャラクター 新聞 5 件/ガチャ　新聞 3 件・テレビ 2 件）
②今年度実施したすべての事業が目的地としての来村を促すことができ、新たな客層の掘り起こしやニーズの把握をすることができた。（スタンプラリー 実参加者 263 人/歩いて巡るコース総参加者 188 名参加）
③デジタルスタンプラリーや歩いて巡るコース参加者の村内滞留時間が比較的長く、周辺店舗への流入にも繋がった。また、石神仏ガチャを目当てに来村し、そこからスタンプラリーに参加するなど、新たな PR ツールが複数来村するきっかけになった。

【目標・ねらい】

① 知名度・認知度の向上
② 単なる通過点から目的地へ
③ 滞在型観光拠点を目指す

※自己評価【　B　】

【理由】
目標の参加者数に届かなかった事業もあるが、全体を通して課題やニーズが見え、事業の継続や発展に視野が広がり、可能性を見出すことができたため

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

筑北スマート IC が開通したため、その勢いに乗り観光を促進させていく。筑北村らしい田舎を体感できる観光資源はそのままに活かし、新たな観光資源の開発として、旧国鉄廃線敷の活用やデジタルスタンプラリーを含むデジタルコンテンツの拡充を進める。旧国鉄廃線敷はまず環境整備に注力する。デジタルコンテンツのリリースは令和 7 年度を目指し、6 年度はリサーチと準備期間に充てる。新たな PR ツールであるキャラクターの着ぐるみやぬいぐるみなどの製作を検討しており、露出を増やすことで筑北村の知名度・認知度の向上を加速させ、新規ファンの獲得を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある